
魔法少女リリカルなのは 闇と言う名の正義

無限の欲望

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 闇と言う名の正義

【Nコード】

N8826S

【作者名】

無限の欲望

【あらすじ】

チートな転生者で八神 はやての双子の兄が繰り広げられる物語です。

始まり

俺の名前は、黒崎 刃、今起きたら一面真っ白な部屋にいる。俺は、これには、すごく心あたりがある。よくある転生憑依系の小説の始めの場面とまったく同じだからだ。

????「おい、そこのお前」

ふと、後ろから声があったので振り返るとリリなののリインフォース（バリアジャケット展開時）がいた。

刃「何故ここにリインフォースが居るんだ？普通は、神様だろ」

????「何、私は、リリなのが好きだからこの様な姿をしてるだけだ。これでも一応神だ」

刃「所で俺は、そちらの手違えとかで死んだのか？」

神「いいや、違う。おまえは、寿命が尽きて死んだ。死因は、心臓発作による物だ」

刃「なら何故俺は、ここにいるんだ？」

神「おまえに3つの事を頼みたくて私が読んだ。1つ目は、テストロツサ家に救いの手を 2つ目は、リインフォースの生存 3

つ目は、管理局に実験動物として扱われている子供たちの救助だ。

また受け入れたらそれなりの力をやるう。」

刃「引き受けよう、てか臨む所だ」

神「ふふふ、頼もしいな」

刃「所で貴女は、どれぐらいの地位を持った神ですか？」

神「私は、どの神より1番えらい存在だ。まあ宇宙その物の意思と言っても過言ではない。てかとつとと行け」

指をパチンと鳴らすと刃の下に大穴があいた。

刃「いきなりかよ~~~~!!!!」

そして新しい物語が始まる。

状況確認（前書き）

無限の欲望「こんにちは、皆さん私は、これからヨクと訳させてもらいます。」

刃「それより俺は、どんな性格にしたんだ？」

ヨク「基本マツタリだが怒ると手を付けられなく頑固で人の役に立つのが好きでとこかな。」

刃「それじゃ、今日は、ここまでそれじゃさようなら」

（「」が言っている言葉が思いを言っています）

状況確認

転生してから7年後

刃「よう久し振りだな。今八神 刃て名乗っている。皆築いたと思うが俺と八神 はやては、家族だ。てかあいつとは、双子の兄と言う関係だ。まあ全然似てないがな。理由は、二卵性だからだ。またまだはやては、足が不自由ではない。そして今はやてと一緒に遊ぶため公園に着ている。」

はやて「なあ刃兄」

刃「ん？」

はやて「あそこのベンチに泣いている子がいるんだけど一緒に遊んでくれない？」

刃「別に構わないが本人の確認を取らないとな」

そう言うと刃は、その子に向かって歩み寄っていた。

????「うぐーえぐ あぐ」

刃「どうして君は泣いているの？」

????「お父さんが大怪我してお母さんとお姉ちゃんがお父さんの看病でお兄ちゃんは、道場で稽古熱中してなのは、一人寂しくて泣いてたの。」

刃は、一瞬固まった

刃「この子が未来に魔王と言われる高町　　なのはだと?!今の様
子を見ているととても信じられんな。まあ
これも何かの縁遊んでやるか。」

刃「なあ、泣いてないで俺らと一緒に遊ばないか?」

なのは「一緒に遊んでくれるの?!」

刃「ああいいぜ。そうそう俺の名前は、八神　　刃て言うんだ」

なのは「高町　　なのはだよ!!よろしくね!」

なのはも嬉しそうに自己紹介する

刃「そうそうあそこにいるのは、俺の双子の妹のはやてな」

はやて「もう刃兄ちゃん遅いわ。まあよろしくなのはちゃん」

なのは「うん、ヨロシクなの」

その後時間も立ち変える時間になった。

刃「さて、そろそろ返りますか。」

なのは「今日は、ありがとつ。また明日も遊ぼうなの」

刃「いいぜ、ならウチの電話番号教えるよ」

刃は、なのはに家の電話番号の書いた紙を渡すのだった。

なのは「ありがとうなの。じゃあまた明日ね！ばいばい」
そう言って走って行くのはただ

はやて「元気な子だな〜始めとは、大違いだわ〜」

刃「それほど嬉しかったんだろ。さて俺たちも帰るか。」

刃とはやてが帰り道を歩いているとはやてがこの様な事を言った

はやて「刃兄ちゃんここを突き抜けると家は、すぐそこだよ。」

そこは、あまり整備されていない林だった

刃「そうなのか、ならとおろおか。」

少し進むと人が倒れていた。

はやて「刃兄、人が倒れているよ！！！！救急車よんで！！！！」

刃「その必要は、ない医者ならここにいる」

そーいい刃は、倒れている子を調べ始める。

はやて：そーいえば、刃兄ちゃん医者の免許もつとたな〜他にも色々免許を持つ天才だから何でもありだわな〜

刃：こいつ悪魔だな。まあ魔力が減り消滅し欠けてるが魔力を分け
てやれば次期回復するだろう。

刃「脈は、安定しているし来れと言った外傷は、ないからたぶん疲れから倒れたんだろう。これなら放？！」

はやては、刃が最後まで言うまえに腹に素早くパンチをクリンヒットさせたのだった。

刃「くぼばー」

はやて「なに人を放置しようとしてるんねん」

刃「だって面倒だもん」

またもはやてのパンチが綺麗に決まった。

刃「ぐあ」

はやて「何がめんどくさいなん！さあさあとつとと家に運んだ運んだ！だ！」

刃「たくしゃーねーな」

そしてこの出会いがこれからの世界を決める運命の日だった。

状況確認（後書き）

設定

八神 刃（黒崎 刃）

魔力EX

筋力EX

耐久EX

敏速EX

幸運EX

魔力式 オメガ式（アスラクラインの魔法陣）

スキル

瞬間記憶（一瞬で記憶出来る）

世界とのリンク（すべての世界の技術や武道、魔術などを引き出す事が可能）

契約悪魔（前書き）

ヨク「この前の作品がなのはフラグでした！」

刃「おい、なにフラグ立てているんだよ！俺をこれからどうするつもりだヨク」

ヨク「そりゃハーレムですが何か？」

刃「マジかよ」

契約悪魔

刃たちは、家の前に着いた

刃「はやて、母さんたちにこいつどう説明するんだ」

はやて「大丈夫や母さんなら問題は、特になしやろう。」

刃「まあ、あの人達だからな。んじゃ入るか。」

そう言つて刃は、扉に入った

刃とはやて「ただいまー」

両親「お帰り〜」

父さん「てっ刃背中の人どうしたんだ？」

刃「その林で倒れてた。はやてが拾つて来た。多分疲れから倒れたと思うからベット貸していい？」

母さん「別に構わないわ。でもちゃんと看病するのよ。二人で」

刃「しゃーねーなー」

はやて「了解やー！」

刃「そろそろ寝るはやて」

はやて「ふあゝおやすみや刃兄ちゃん」

刃「…………おきているんだろ。悪魔さんよう……」

????「?!…………お前は、何者だ?」

刃「俺か?俺は、八神 刃とゆう化物だよ。そちらは、?」

????「はやとだ。お前も悪魔か?」

刃「違うまあ他に偽面が有るなら言ってくれはやといや、漆黒の墮天使さんよう」

はやと「?!」

刃「まあ今日は、ゆっくり休みといいよ」と言い刃は、部屋から出て行くのだった。

はやと「やつは、いったい何者なんだ?」

状況整理（前書き）

ヨク・アスラクラインの悪魔は、並行世界の人と刃は、言っています。はやとは、機工魔術士の悪魔ですね。」

状況整理

刃「あれからはやとは、新しい家族になりました。また契約して工房でアスラ・マキーナのクロガネ、ヒスイ、ロードナイト、ビスマス、鋼を複製、魔改造しました。あとアスラ・マキーナでこの宇宙ととなりの宇宙に新しい宇宙を作りそこにデジモンやらモンハンのモンスターなどがある星など作りました。そして今機工魔術士仲間でお茶をします。」

骨「まさか新しく宇宙を作るとは、とは、恐れ入るぜ」

フルカネルリ「まったくだな。はやとの奴も度肝を抜かしたいたぞ。」

刃「だけど正直まだ足りない物があるだよな」

ユウカナリア「嘘、まだ何か欲しいの？それは、一体なによ？」

刃「人だよ」

はやと「人？ならホムンクルスやデジモンがいるをじゃないか。」

刃「いや、あいつらは、俺が作ったから俺に絶対服従だから意味がある意味違うな。なんというか。研究仲間が欲しいというか。同年代の友達が欲しいというか。そんなところかな」

骨「なるほどつまり、寂しいことか。」

ユウカナリア「今思うとやっぱ、刃も子供なんだな」

刃「う……ああ、誰か居ないかな。俺の宇宙に住まして守るのに。てか、国作るかな。世界の貧しい集めて。」

フルカネルリ「たいそう壮大だね。おまえの考えは、なら協力してやるよ。」

刃「本当か？」

フルカネルリ「ああ、まあお前が言っただけだ。悪魔たちに流すだけだな。」

刃「充分だよ。それで。」

それから1週間が立ちまたお茶会を開いた。

フルカネルリ「まさか。本当に悪魔の国を作るとは、な……。」

刃「悪魔だけじゃなく新種の人類のニュータイプやイノベーター、亜人、天使、コーディネーター、墮天使、メイジ、エルフ、獣人などもいるんだが？」

はやと「僕は、驚きのあまり胃に穴が空きそうだよ。」

ユウカナリア「本当よね。」

刃「あんたには、1番言われたくない。てかさ。フルカネルリ俺といつしよに時空間からエネルギー取りだす。研究しないか？」

フルカネルリ「？……面白い。その話のつた。」

刃「骨も来いてか強制連行だ。」

骨「おことわりさせてもらう。俺は、最前線に立って居たいんでね。」

アイ姉「いくよ。ツケ払いたいし……………」

刃「骨……………」

骨「そんな哀れむ目で俺を見るな？ああいくよ。行けばいいんでしょ。」

こうして刃は、頼れる仲間を作ることだった。

設定（前書き）

ヨク「今回は、オリキャラなどの詳しい設定についてです。」

設定

八神 刃（黒崎 刃）

7才（+20才）

性別 男

ステータス

筋力EX

魔力EX

耐久EX

スピードEX

スキル

闇の王（闇を操ることができる。）

魔眼（相手の使う技、技術などを読み取り理解しコピーすることが可能）

心の目（相手の心を読む）

武人の目（相手の強さや状態、死ねまでの時間が分かる）

王の目（目を見た物は、命令に従う）

封印しているスキル

冥王の目（直視したら死ぬ）

性格 基本まったりだが切れると手が付けられない頑固で人の役に立つのが好き。

容姿 黒髪で目の色が赤。

魔法式 オメガ式（アスラクラインの魔法陣）

オメガ式とは、

陣で脳波を増強して原子その物に干渉する。また魔法回路などをうまく使えば誰で使え。コツさえつかめば誰でも強力な魔法が使える。

八神 はやと

性別 男（悪魔）

魔力 A

筋力 A

耐久 A

スピード A

スキル

特になし

性格 大人しいが怒ると笑っているのにどす黒いオーラを放つまた戦闘狂

容姿はやてを男にしたかんじ

一巡目の世界のはやてで性別や性格がまったく違う。骨がまだ人間だった時代に飛ばされ骨と共に悪魔の時限で暴れ回るまたたまに人間の世界にも来て居たようだ。今は、八神家でノンビリくらして居る。

設定2（前書き）

着けたしです。

設定 2

八神 刃のプラススキル

瞬間記憶（一瞬見ただけで記憶します。）

完全記憶（記憶した事は、忘れません。）

正夢（夢がこれから起きるのであるう事を見せます。）

霊眼（力の流れや幽霊が見える）

アスラ・マキーナ改造の仕方

全体的にステータスを強化

エンジンをベリアル・ドールからGNドライブ（オメガ）に

また複合フィールド発生装置やゼロシステム、力場発生装置、装甲

オメガ、光圧推進システム、ワープ装置などを全機装備

ヒスイは、氷だけじゃなく水や風、回復、サポート魔法が使えるようにした。

ロードナイトは、鎖を多くした。また人を材料に賢者の石を創れる。

また固体や火を操れる。

クロガネは、生と死と運を操ったりアスラ・マキーナからベリアル・ドールを切り離せる。

ビスマスは、ランスをジंकクス3のランスに変えシールドを着けた。鋼は、特にない

GNドライブ（オメガ） 無限機関

力場発生装置 重力などを人工的に操れる。

複合フィールド発生装置 エフィールド 陽電子リフレクタ

Ⅰ GNフィールド ハイパージューリオンを同時に発生させる。（透明で見えませんが。）

装甲オメガ エネルギーを吸収し電気エネルギーに変える。

ワープ装置 ワープが出来る

刃が立てた国の名は、ネオ ジオン共和国 大統領式で王様も
いるが日本の天皇みたいな立場でいくつかの星からできている。

ネオ ジオン共和国とは、

人種、イノベーター、ニュータイプ、コーディネーター、エルフ（ガンダム）

3種類の悪魔（機工魔術士の）

3種類スターオーシャン
亜人、超人

獣人（東京アンダースタンド）

鳥人、天使、オリジナル墮天使

精霊、メイジ、エリフ（ゼロの使い魔）

能力者（アスラクラインの悪魔と東京アンダ

ースタンド）

これらからなる国家でオメガ式があるのでみんな仲良くやっています。

鳥人とは、背中に赤や緑の鳥の翼を持ち、翼の色により能力が変わる種

赤〓火 緑〓風 青〓水

白〓氷 茶〓土 黒〓雷

天使や墮天使は、耳の後ろと背中に翼があり天使は、白 墮天使は、黒で翼の色の雷を操る。

星の核は、擬似的に再現した物なので噴火や地震は、ありません。でも重力や風などは、ちゃんとあります。また天候は、ある程度抑制できます。

太陽は、他世界とリンクしている。ので寿命は、ありません。

第1惑星 広大な自然が広がり人びとは、群れをなすエルドラデイモン上か天空都市に住んでいる。

第2惑星 一面海で人びとは、海の上に都市を作り住んでいる。

第3惑星 星丸丸要塞です。

第4惑星 一面が都市です。

上4つは、人とデジモンと動物しかいません。

第5惑星 モンハンのモンスターが住んでいる。

第6惑星 トリコの動物が住んでいる。

第7惑星 星丸丸監獄で魔王型のデジモンやトリコの凶暴な動物がいます。

第8惑星 極楽惑星です。

どの星にもある程度の生産力は、ある。

はやてとデジタマ

刃（久しぶりの登場の刃だ。今は、ネオ ジオン共和国の軍事強化をしている。アーマードコアのヴァリアブルインフィニティーシリーズミラージュをナイトメアサイズにしたり、MSのスサノオとネモ、ブレイヴを足して割ったかんじの機体を作っている。ん？電話か）

はやて「もしもし八神家ですけどどちら様で？」

警察「警察の物ですけど八神さんのお子さんだね？今から大切な事を話ので落ち着いて聞いてください。あなた達両親は、交通事故で亡くなられました……」

そしてはやては、その場に膝を付き泣くのだった。

刃「はやて急にないてどうしたんだ？！」

はやて「刃兄ちゃん？お母さんが！お父さんが死んじゃだよ？」

刃「はやて。病院にいくぞ。はやともだ」

その後、はやては、冷たくなった両親を見て倒れてしまいはやてが病室に運んでいった。その後刃は、冷たくなった両親にゆうのだった。

刃「後の事は、任せてくれだから、安らかに眠りにつつくれ。」

この後、刃は、医師に呼ばれるのだった。

刃「先生はやての状況は、」

医師「はやてちゃんは、原因が分かりませんが足が使えなくなってます。多分ショックからでしょう。」

刃（闇の書の進行が今になって来たか・・・今までは、身体強化魔法でなんとか抑えたがもう隠せないな。それに守護騎士たちが起動しないとアクセスできないんだよね。）

刃「なら何か動物を飼った方がいいでしょうか？」

医師「そうするといい。」

刃（なら護衛も兼ねてデジタマでもやるか）

先生との話が終わった後ある髭をはやした。人が話かけて来た。

グレハム「君のお父さんの友達のグレハムだ。君たちを支援したいんだがどうかね？」

刃「・・・闇を夜天に戻す手だてを俺は、持っている。だからあなたの助けは、いらない。あなたの計画を実行したら俺は、あなたを殺す」

すると刃は、軽く殺気を出すんだった。

グレハム（！！なんだ？この殺気は、なぜこんな小さい子供が！しかも、私の計画を知っているだと？）

刃「それじゃーな」

両親が死んでから一週間後

刃「はやとなのは「お誕生日おめでとう。はやて（ちゃん、姉さん）」

はやて「ありがとなみんな。私の為に」

なのは「友達だから当たり前だよ。はやてちゃん。」

刃「それじゃー開けてみなはやて」

はやて「うん、え〜とはやとがネックレスでなのはちゃんが綺麗な写真立て・・・刃兄ちゃんこれなんや？」

刃「見ての通り卵だが？」

はやと「てっデジタマじゃんこれ?!」

なのは、はやて「デジタマ???」

刃「ああデジタマだ。俺が作った人工生命体だ。」

はやて「・・・喜ぶか微妙やな〜」

刃「まあそのうち価値が分かるよ。さあケーキ食べよ?」

闇と夜の一族（前書き）

すみません。誰がどのデジモンがいか迷っていました。

闇と夜の一族

誕生日会が終わった後

刃「んじゃ、俺は、夜の散歩に行つて来るは、はやて、はやと。」

はやて「了解や。」

はやと「いつてらしゃい。」

それから20分後

刃は、今山の中を散歩している。

刃：親父達が死んでから一週間か。あれからいろいろな事があつたな。家を形を変えずにはやてのやつにはれない様に家を要塞化した。多数の魔改造したギズモンA Tを配備したりまあ、流石にはやとの奴には、ばれたが、事情を説明したら、納得してはやての護衛に付いたからまあいいか、それと俺の相棒のブラックテイクモンX（人間に化けている）の戸籍を偽造して関係者の記憶を上書きしたりこいつを俺らの保護者にしたりまあ、いろいろやったな。・・・
・あれなんか、なのはの臭いがする（刃は、自分の身体を魔改造したので嗅覚が犬並です。）なんでこんな山奥になのはの臭いがしかもまだ新しい・・・臭いを辿っていくか。

とある山道

なのは：10分程前はやてちゃんの誕生日会の帰り道で突然車から手が延びて来て私を掴んだらそのまま車の中に押し込んだの。そしてゲームテープで口と目を塞ぎ縄で手を縛つて来たの。これって、よくあるドラマ誘拐みたいなの・・・！！！！今止まったの！！！！

犯人A「おいてめら降りろ!!!」

そしてなのはの口と目についているガムテープを犯人Bは、剥がし
廃墟の中に押し込むのだ。

???「うう、怖いよ。ママ、パパ、早く助けに来てよ。」

???「うぐ、へぐ、あぐ。」

なのはが小屋の中に入ると紫色の髪の女の子と黄色の髪の女の子が
お互い身を寄せながら泣いていた。

なのは「私の名前は、高町　なのはなの。大丈夫みんなは、すぐ
助けに来るから落ち着こう」

黄色の髪の女の子「うん……私は、アリサ・バニングスそし
てこちが」

紫色の髪の女の子「すずか、月村すずかだよ」

なのはが小屋に押し込んでから10分後犯人達は、廃墟に入るのだ
った。

犯人B「けけけ流石にサツも同時に三人も誘拐されたんだったら。
お手上げだろうな。」

犯人A「それにしてもお前達も災難だなこんな化物と一緒にされる
んだなんて」

すずか「!!!!」

なのはとアリサ「?????」

犯人A「あくお前ら知らないのかならおしえてやるよ。」

すずか「辞めて……………」

犯人A「そいつは、な」

すずか「辞めて……………」

犯人A「吸血鬼なんだよ」

なのはとアリサ「え……………」

アリサとなのはは、呆れてしまい
すずかは、涙を流すのだった。

犯人B「ははは本当に災難だな。こんなけがらわらしい化物と一緒に押し込まれて」

そう言いすずかを蹴るのだった。

すずか「が……………」

そしてまたすずかを犯人Bは、蹴ろうとしたが先になのはが口を開くのだった。

なのは「辞めて?」

犯人B「あん?」

なのは「もうすずかちゃんを傷付けないで」

犯人B「なんだお前こんな化物を庇うのか？」

なのは「すずかちゃんは、化物なんじゃない。化物だったらとつくに襲われているもん。だからすずかちゃんは、化物なんかじゃない
！！！！」

アリサ「そ、そうだよ。すずかは、すずかだよ！！！」

すずか「なのはちゃん、アリサちゃん」

犯人B「ムカつくな……ならここで死ね」

そう言いなのはに拳銃を向けるのだった。

すずか「辞めて？」

そう言いすずかは、なのはを庇うよに間に入るのだった。
犯人が撃とうとした瞬間壁が拭き飛ぶのだった。

魔法との出会い

すずか：いきなり壁がふきとぶなんて……やな予感しかしないよ……

犯人B「なんだ?? 一体??」

犯人A「気を付ける全員、その化物の仲間かもしれん。」

周りの20人ほどの男達『了解』

すると壁の向こうから二つの目が光どす黒い声が響くのだった。

???「ぐぐぐぐ長年待った会があった……。こんな所で上級悪魔と機工魔術師八神 刃の友にあったのだからな!!!!」
そうすると、壁の向こうから目が3つの黒くデカイ蛇の化物が出てくるのだった。

犯人達「ば、化物め!!!!」

犯人達は、手に持つ拳銃やサブマシンガンを乱射するのだった。

蛇「えい、うるさいは、このウジ虫どもが!!!!」

そう言うと蛇は、口から火を吐き出すのだった。

犯人達「う、うあ!!!!」

犯人達を焼いた火は、なのは達を縛る紐を焼き切りそのまま、建物

に燃え移るのだった。

アリサ「逃げるわよ、すずか」

なのは「そうなのはやく逃げるの」

すずか「あ……うん！」

アリサとなのはは、すずかの掴み逃げだそうとしすずかは、戸惑いながらも、最後には、嬉しく答えた。

なのは達が焼けている廃墟から少し逃げた所で蛇がきずき言ったのだ。

蛇「む?!逃がさん!!!」

蛇は、素早く周りこみなのは達の逃げ道を塞ぐのだった。

蛇「貴様達をにがしては、八神 刃をおびき寄せられん!!!」

なのは「……刃に何をするつもりなの?！」

なのはは、怯えながらそう言ったのだ。

蛇「なぐに奴には、絶望を味あわせてから殺すのだよ。」

アリサとなのはとすずか「な!!!」

アリサ「なんでそんな事をするのよ!!!あんたは、」

蛇「あやつのせいで私は、こんな所に居なくては、ならなくなつたのだ!だから奴の前で貴様達をなぶりごろして奴に絶望を味会わせて殺す事で復讐が完成するのだ!!!」

???「俺がやらせるとも???」

なのは達は、バト上を振り向くとそけには、浮いている刃がいた。

なのは「刃君!!!」

蛇「なぜここにいる地獄の番人八神 刃!!!」

刃は、降りてきてこう言うのだ。

刃「な〜に夜の散歩ちゅうになのはの臭いがしたから辿ってきただけだよ。」

アリサ「あんた何者なの???」

刃「あ〜知りたければ明日の1:00に公園の噴水前にこいそれじゃ〜な」

すると刃は、なのは達に強制転移魔法を発動させるのだった。

刃「さて蛇こう俺の友達に手をだして置いてただですむ思っなよ!!!」

すると前に魔法陣が現れそこを刃が通り抜けると服は、変わりバリアジャケットになっていて手には、それぞれ刀が握られてたて蛇に向かいながら4つの魔弾を作り蛇発射した。

刃「オラ!!!」

蛇「ぐ!!!」

蛇は、なんとか避けたモノの来た刃に接近を許してしまった。

刃「消える。時空切り!!!!」

刃が蛇を切った所から蛇の体より小さい時空の裂け目が現れ蛇を飲み込むのだった。(ゆっくり蛇の体がグシヤグシヤにしながら)

刃「たく面倒な事になったな。」

そう言い残しそのばをさるのだった。

設定3

八神 刃

つかう技術

魔法オメガ式

気

気は、身体強化などに特化した魔法。

身長 フェイスより頭一つ大きいぐらい

バリアジャケットは、METAL GEAR SOLID

PEACE WALKERのスネークの格好みたいな感じで色合いが濃い緑の迷彩で長袖で前が空いていて黒のアンダーが見えている首に紅いマフラーをしてかたと腕に黒いアーマーがついている黒いブーツと黒いベルトをしている。

武器

アーマーデバイス（AIなし）

神剣 龍王

形 刀 （ワンピースのブルックの魂が入ったサミライの刀）

属性 炎 闇 風 鋼

特性 血を浴びるほど剣の質が上がる。

そのものの存在を消去する

時空を切る

魔剣 牙竜と邪竜

形 刀二本（MSのスサノオの剣しかし刃は、紅色）

属性 共通 鋼 闇 風 炎

特性 血を浴びるほど剣の質が上がる。

牙竜 切ったら相手の欲が暴走しそいつに合った獣になり刃に使える。

邪竜 切った相手の魂を食う（死体は、残らない）

インテリジェントデバイス

総合管理デバイス 零

ゼロシステム（暴走しない） GNドライブオメガ

ワープ装置 バッテリー 通信 補助システム

GNタンク（カートリッジとほとんど同じ） エネルギー変換装置

力場発生装置 外部リンク装置（他の場所に力を流したりする。）

八神 はやと

八神 はやてのバリアジャケットに帽子をとった感じ

なのは魔法と出会う(前書き)

もう原作ブレイクしまくりです!!!!!!

アリスとすずかとなのはは、学校が始まる前から友達にしました！
！！

なのは魔法と出会う

翌日

なのはは、刃や他の人の事を気にしながら公園の噴水に向かっていった。

なのは「アリサちゃんやすずかちゃん、刃君は、大丈夫だろうか。・・・あ、すずかちゃん!!!」

なのはが噴水前のベンチに座るすずかを見つけて走り出す。

すずか「あ、なの(ドン)ふえ?!」

なのはは、大胆に何も無い道に転んでしまった。

すずか「な、なのはちゃん?!だ、大丈夫ぶ?!」

すずかは、なのはのそばに駆け寄る。

起き上がったなのはぶつけたおでこをさすりながらいうのだった。なのは「にははは、転んだけどなんとか大丈夫だよすずかちゃん」

???「何であんたは、何もない道で転ぶのよ。」

なのはとすずかは、聴き覚えの有る声を聴き後ろを振り返るとアリサが仁王立ちしてたのだった。

すずか「あ、アリサちゃん」

なのは「いつの間にそこに居たのアリサちゃん」

アリサ「あんたが来た少し後よ。」

すずか「みんな無事で何よりだよ。」

アリサ「本当にね〜」

なのは「うん、そうなの。所で刃君は、まだ来ないのかな??？」

アリサとすずか「刃君??？」

なのは「昨日、助けてくれた男の子が刃君なの。」

すずか「え、あの子てなのはちゃんの友達なの!!!!!!」

なのは「うん違うよ。すずかちゃん。刃は、私のか（友達だ）・・・」

刃の声がしたのでなのは達は、周りを見回すも自分達以外に誰も居ない

刃「待った今でるから。」

そう言うとなのはの影から刃がでてきた。

なのはとすずかとアリサ「わ?!?!?!」

刃「少し送れた。すまん」

なのは「別にいいけど、今度から普通に来て！！！！びっくりしたの！！！！」

刃「あいよゝまあ、立ち話もなんだ場所移すぞ、ルーラ。」

刃達は、自分の部屋（ネオ ジオン 共和国の方でフルカネルリの工房みたいな感じで真ん中にデカイテーブルがある以外特に違いは、ない）

アリサ「わ???!。また行きなり場所がかわった?!」

すずか「まるで魔法みたい」

刃「いや、これ魔法だから。」

なのは「それじゃあ、人を生き返させたり、一瞬で怪我人を直せるの？」

刃「それなりに修業すれば出来るな。まあ、座れ」

なのは達は、言われたとおりイスにすわった。

刃「じゃあ、初めに自己紹介からな、俺は、八神 刃そのなのはの友達だ。」

アリサ「私は、アリサ・バニングスよ」

すずか「私は、月村 すずかだよ。」

刃「んで、何から話せばいい？」

アリサ「ならあの化物は、何か教えて。」

刃「あれは、悪魔だ」

なのはとすずかとアリサ「悪魔?!」

刃「そう悪魔だまあこれから詳しく説明するから聞け。」

悪魔の世界について説明中

刃「まあ、こんなもかな」

すずか「あの〜」

刃「ん?なんだ?」

すずか「悪魔は、人間の次元に攻めないんですか?」

刃「悪魔にとって攻め価値があまりないからな。居るとしても力を失った悪魔か、弱い悪魔か、あのクソグモかな」

アリサ「なら昨日の化物は、力を失なった悪魔なの?」

刃「ああ、まあ安心しろ、この街に悪い悪魔は、入れないから。」

すずか「なんでなんですか?」

刃「街に結界を貼っているし一週間に一度結界の周りを巡回しているからだよ」

なのは「刃君」

刃「なんだなのは???」

なのは「私でも魔法を使えるの?」

刃「コツさえつかめば誰でも使える。」

すずかとアリサとなのは「それ本当(なの、ですか)?!」

刃「なら俺たちが使う魔法について教えるよ。」

説明中

刃「て、ことだ。」

アリサ「案外科学的ね〜」

刃「行き過ぎた科学は、魔法になり、行き過ぎ魔法は、科学になる
てね。」

すずか「……………最後に質問があるんですけど」

刃「なんだ?」

すずか「夜の一族と悪魔は、何か関係があるんですか?」

刃「地球にいる吸血鬼のほとんどがイギリスの魔術師の人造兵器の
末裔だが、夜の一族は、闘いを好まない悪魔の吸血種と人間の間」

できたハーフの子孫だ。だから別に血を吸わなくても生きていける。

「

すずか「本当ですか?!」

刃「ああ」

すずか「ならこの事を家族のみんなに言っていていいですか?」

刃「まあ、いいけどあまり教えて欲しくないな」

すずか「わかりました。」

すずかは、すこし嬉しそうに微笑んだ。

アリサ「ところであんた、私に魔法を教えてください?」

刃「別に構わないが。」

なのは「なら私も教えて欲しい!!!」

すずか「なら私も!!!」

刃「うん、了解だ。なら今日から魔法の修行をするか。あああとはやての奴は、この事を知らないからよろしくな」

なのは達の修行は、始まる。

修業1

刃「さて、修業だが、どれぐらいやる。護身ていどか本格的にやるか。」

アリサ「私は、本格的に。」

なのは「私もなの！」

すずか「私も家庭の事情で本格的にやりたいな。」

刃「了解。なら場所変えるぞ」

そう言い刃は、手を前に挙げると手から赤黒い水晶がでてきて刃は、つぶやく

「スタート」と

なのは達が気が就くと目の前は、広い武道場になっていた。

刃「ここは、文武の間。ここは、外とは、時間の流れが違ってそとの1秒がここでは、1日だから」

すずか「え・・・ならその分老けるとゆう事ですか？」

刃「いや。老けない様にしてるから大丈夫だ」

アリサ「魔法で凄いわね。時間や空間さえ思いのままにしちゃうんだから」

刃「いや、出来るのオメガ式だけだから。」

なのは「どれぐらいの人が出来るの??？」

刃「一人前レベルだ。さて初めは、気と基本的な魔法からな。まず気を流して回路を作るから目を閉じて。」

なのは達は、静かに目を閉じた。

刃「ほんじゃ、いくよ。」

なのは達は、身体中流れる赤いモヤモヤが整えられるが脳裏に浮かんだ。

なのは「この暖かく・・・」

アリサ「優しい・・・」

すずか「流れが回路を巡る気・・・」

刃「よしならゆつくり目を閉じながらその流れている気を手の所に集めてみて。」

アリサ：ゆつくり目を閉じながらねわかったわ。

すると、アリサの手には、赤く滾っている玉がすずかには、白い冷気と水で出来た玉がありその回りを風が回っている。なのはには、赤黒く光電気が回りに飛び交う玉が出来た。

刃「出来たからみんなゆつくりそっと目を開けてみな」

なのは達は、ゆつくりそつと目を開けてみた。

なのは達「綺麗・・・」

刃「アリサは、土と炎ですずかは、風と水と氷でなのはは、鋼か。
うんなかなかいい感じに安定している。なら次行くぞ」

続く

設定

オメガ式について

オメガ式には、大きく分けて8つの属性がある。

属性名 (やり方(例))

光 (光を出す反応を操る(陽電子砲などと同じで色は、人それぞれである))

闇(ダークマターを操る(クロガネの重力弾と同じ))

炎(熱を出す反応を操る(炎が出る))

氷(熱を吸収する反応を操る(冷気が出る))

土(固体の性質を変える(何も出ない))

水(液体の性質を変えたり操る(水が出る))

風(気体の性質を変えたり操る(風が流れる))

鋼(今までのすべての属性のハイブリット(ハガネの重力弾))

別に初めに出た属性だけしか使えないわけでは、なくてどの属性もコツさえつかめば誰でも出来る(あまり努力しなくても)ただ、あまり自分に合わないので、ほとんど使わない。また光属性の光弾なら気の気功弾で再現出来る

ブラックデュークモンXが間違いで本当は、ブラックデュークモンXです。

名前 ブラックデュークモンX

世代 超究極体

タイプ 闇騎士型

属性 ウイルス

必殺技 砲撃モード 超重力砲

近接モード 崩壊の一撃

無差別モード

メギドラモンの腹部と肩をもち腕は、フェイトのソニックフォーム（第二期）のコテを横に広くしたみたいで下半身は、デュークモン（クリムゾンモードで色は、どす黒い黒と赤で鎧は、機械的にしている。性格は、頭が良く仲間に優しく面倒見がよいが敵は、徹底的に潰す。つまり一番的にしたく無い相手でデュークモンが闇を受け入れたもう一つの姿しかもデジタルハザードを使いこなせる。

砲撃モード モウハンの近衛隊正式銃槍Gをどす黒い黒と赤にしたのとギャンクリーガーのシールドをつけている。また背には、表が黒く裏が赤いマントをしている。

近接モード 両手には、それぞれ牙竜と邪龍を装備

無差別モード サザビーのビームライフルの銃口をデカくし刃をつけた感じの銃を2丁つけ背には、機械化したメギドラモンの翼がある。

ネオ・ジオン共和国の人は、食文化の関係や医療の発達で年で死ぬことは、なくなった。1000歳を超えても美人である（髪は、さすがに白くなる）ネオ・ジオン共和国の人は、美人美女である

オマケ

ヨク「いや〜なんか初めての作品だから設定と本編を離すしか上手く出来ないやしかも、書き忘れもしてるし。ああそうそう、属性の書き忘れで雷をいれは、すれてたよ。」

刃「本当だよ。」

はやと「まあ、そういうなって刃兄さん」

ヨク「てか、はやとの方が年上なのになんで弟なんだよ。」

はやと「いや〜なんとゆうか〜昔の命の恩人に似ているからで」

刃とヨク「ふ〜ん」

はやと「所でオメガ式について詳しく説明したけ？」

ヨク「あ……」

刃「い、今からでも遅くは、ない書いちまえ」

ヨク「わ、わかった」

オメガ式魔法

雷属性 電流が流れる反応を操る（電流が流れる）

属性付属 属性をつける

雷属性付属　電撃を流して相手を焼き殺すが出来るエンチャング
でまたやり方によれば疲れの回復や相手を麻痺させられる。

氷属性付属　冷気により相手を凍らせることが出来るエンチ
ヤング

炎属性付属　炎により相手を焼き殺す

闇属性付属　重力により相手を捻り潰すか削る

鋼属性付属　今までの属性付属のハイブリット

気功波　拳に気を込めて殴ると相手は、吹き飛ばす。

連パンチ　拳に何層かに分けた気を込めて殴ると相手は、身体
の中で気が暴れ回り何回かすると弾けま
す。また何層になるかは、人による。（トリコの10連釘パンチで
気を使うので腕は、デカくない）

炎の拳　気功波と炎属性付属の複合技。拳に炎を覆って相手を
殴り飛ばして何か物に当たったら爆発す
る。

雷の拳　気功波と雷属性付属の複合技。拳に雷を覆って相手
を殴り飛ばして何か物に当たったら高圧電流が相手の回りに流れる
パターンと殴った数秒後に殴った所とその回りが麻痺する。

氷の拳　気功波と氷属性付属の複合技。氷に冷気を覆って相
手を殴ると殴った所とその回りが凍る。

闇の拳
の重力が増す。
気功波と闇属性付属の複合技。殴ると相手の周りを凍らせながら進む。着弾じに相手を凍る。

錬金術
た物
土と水と風のハイブリット魔法で物の生成に特価した物

状態変化
る。
炎と氷のハイブリット魔法で物質を状態変化させる。

気功砲
気を使った砲撃です。着弾じに爆発させる事が可能

電撃砲
気功砲と雷属性付属の複合技。雷属性の砲撃

闇功砲
り
気功砲と闇属性付属の複合技。闇属性の砲撃で周りを吸い込み削りなが進む。

火砲
みながらあたりを焼いて行く。着弾じに爆発する
気功砲と炎属性付属の複合技。炎属性の砲撃で進む

冷却砲
を凍らせながら進む。着弾じに相手を凍る。
気功砲と氷属性付属の複合技。氷属性の砲撃で周りを凍らせながら進む。着弾じに相手を凍る。

光砲
陽電子砲

魔砲
鋼属性付属と気功砲の複合技。闇と炎と雷の砲撃。

気功弾
きで出来た弾を打ち出す。着弾じに爆発させる事が

可能

火弾

火の玉（気功弾に炎属性付属をした物）を飛ばす。

闇弾

重力弾（気功弾に闇属性付属をした物）を飛ばす

雷弾

気功弾に雷属性付属をした物を飛ばす

冷弾

気功弾に氷属性付属をした物を飛ばす。

光弾

ビームライフルの弾

鋼

気功弾に鋼属性付属をした物を飛ばす。

修業終了

なのはたちが文武の間で修業を初めてから早くも三年がたち（実際には、外は、三時間しかたってない）。

刃「お前らに教える事は、もう無い。あとは、自身の努力で高みに登れ」

なのはたち「はい！！！！先生！！！！」

刃「・・・ふゝ決まったな」

実は、修業の締めに一劇演じたのだ。

アリサ「それにしても以外に早かったね。修業」

刃「まあ、お前らは、飲み込みが早かったからな」

なのは「修業に励んだ日々を思い出すとなんだか泣きたくなるの・・・」

アリサ「確かに何度か死にかけたからね」

刃「そうか？あんなん朝飯前なんだが。」

アリサ「人間辞めましたな刃と一緒にしないで」

すずか「アリサちゃんいいすぎだよ。」

アリサ「何をゆうのすずか。思い出してみても修業に励んだ日々を初めのうちは、魔法や武術、医学、学問だからまあ良かったけど、最後の試練なんてデジタルワールドにナイフ1本で行かされたんだから、」

「???」でもそのおかげで僕は、アリサ達と出会えたんだからいいじゃないか。」

アリサ「まあそうだけど、やっぱりやり過ぎだと思わないアグモン」

「???」まあそれには、同感だな。少しやり過ぎだな」

なのは「少しじゃないよ。何回か本気で死ぬかと思ったんだからね、インプモン?!」

すずか「え・・・私は、死にそうな時に刃くんとデュークさん（ブラックデュークモンのニックネーム）が助けてくれたよね。ルナモン」

ルナモン「うん、私たちが本当に窮地に立った時は、助けてくれたよ。」

なのはとインプモンとアリサは、刃に向かい顔を頼えますのだった。・・・目は、笑ってなくドス黒いオーラを放ちながら・・・（アグモンは、すずかの後ろに隠れた。）

アリサ「どうゆう事かな？刃くん???」

刃「だってさ〜究極体15体に囲まれてるんだぜ。そりゃーたすけるしよ」

なのは「……今日の所は、許すけどもし変な事したら、私とインプモンの必殺技カオスフレアをお見舞いするの……」

刃「分かった、分かった、すないから殺気を飛ばすな、今のお前たちなら一般人なら気絶するぞ。」

「???」なかなか面白い事をしてるな。転生者八神 刃「

刃達「誰だ/誰なの/誰ですか!」

振り向くと初めに会った神様を男にした様な男が黒い服とジーパンをして壁に背を預けてた。

「???」俺の名は、最強の破壊神だ。少しお前たちに様がある。付き合ってくれ」

刃「……了解した。」

続く

設定

気功柱 気を固めて創った先端が尖がった柱を敵に投げつける。また爆発させる事が可能

火柱 気功柱と炎属性付属の複合技。

闇柱 気功柱と闇属性付属の複合技。

雷柱

気功柱と雷属性付属の複合技。

光柱

GN粒子を固めた物

氷柱

氷で出来た柱

戦いの始まり

刃達は、破壊神に連れられある黒色が基準で金色のラインが入った城に来ていた。

なのは「ここは、どこですか？」

破壊神「ここは、上位クラスの神々が住む神界だ。」

すずか「え、じゃあ、ゼウスやハーデスがいるんですか？」

破壊神「いや、いない。あいつらは、中位クラスだ。」

刃「まあ、詳しいことは、後にして本題に入らないか？」

破壊神は、ある部屋のドワを開けながらゆうのだった。

破壊神「ああわかった。詳しい話すからその椅子に座れ」

中には、西洋風の横に長いテーブルと椅子があった（城にありそうなので黒色を基準で金色のラインがある）

そして、破壊神とは、反対の席に右からアリサ、アグモン、すずか、ルナモン、刃、なのは、インプモン（デュークは、刃の後ろに立っている）腰を掛けた。

刃「で、要件は、」

破壊神「実は、お前たちの力を貸して欲しい」

破壊神は、語る、世界の成り立ちと神々の存在意義をそして、元人間の神がオリンポスの12神を中心とした神々を幽閉して神に反乱を起こした事を

すずか：なんか、すごい事を聞いちゃたな。神は、世界を管理する為に創ったシステムである神が反乱を起こしているとか。

刃「つまり、神々を助け出しその神を殺せば良いんだな。」

破壊神「いや、捕まえるだけでいい。」

刃「何故だ？そんな重罪をしたんならそんな軽い罰では、済まないはず」

破壊神「なに、やつは、捕まえたあと地獄で永遠の苦しみを味わわせてやるんだよ」

刃「なるほど了解した。」

破壊神「なら、和が名を教えよお和が名は、アルハザード・オブ・デストイだ。」

刃「あいよ。ならアリサ達用の武器を作らないとな。てか、アリサ達は、驚かないのか。」

なのはとアリサとすずか『刃（君）一緒にいると並み外れの事は、驚かないよ。』

刃「際ですか。」

続
く

新たな力

刃達は、なのは達の武器を作るためネオ・ジオン共和国第三惑星ガ
ーリアンディエチー（地球と同サイズのデススター）に来ている。

研究室

刃「ふゝ一通りなのは達の武器が完成したからなのは達を呼んでテ
ストでもするか。」

（なのはたちは、第八惑星のクラウンに遊びにいった。）

すると後ろからシュと自動ドアが開く音がした。

刃「うん？」

はやと「兄さん今暇か？」

刃「まあ、暇だがどうした？」

はやと「いやゝ一緒に施設の訪問がしたいんだけど」

刃「まあ、生きね気に丁度いい行くわ。」

刃：今俺は、歩兵などによる訓練を見ている。

はやと「初めの頃とは、大違いだね今の訓練は、」

刃「まあ、生きなりは、無理だろう、それにしてもいい指揮官だな。

俺の作品のデストロイヤードロイド改と歩兵の装備とナイトメア剛と装甲車とリパブリックアタックガンシップを行かせてるよ。」

はやと「まあ、兄さんが戦術を叩き込んだからからね」

刃「お、あつちでは、ヘヴィタンク改とデストロイドのシャイアン？の弾幕か」

はやと「わお、すごい弾幕だな。あんなのよけきれないな…。」

刃「まあ、確かにな」

刃「お、あそこでは、モビルスーツ同氏の格闘戦をやっている。」

港

刃「何！？護衛駆逐艦のデストロイヤーと戦艦スパーク級スターデストロイヤー改と空母のバトルフロンティアと補給艦コルサントフレター改が予想以上に量産化されているだど！！！」

はやと「まあ、全環境運転可能は、魅力だし装甲オメガは、金属を特徴な方法で強化した物だからね。つまり、コストも安く質もいいから、量産化が出来るんだよ。」

刃「まあな。所で貿易は、始めたか？」

はやと「ああ、指示どおり武器から食料品などありとあらゆるをその世界にあつた物で売っているよ。」

刃「よし、なら起動エレベーターと新たな惑星は、どうだ？」

はやと「順調に工事は、進んでいるよ。」

刃「ならいい。・・・ならそろそろずか達を呼んでテストするか。」

はやと「なら、じゃあね」

刃「ああ、じゃあな」

続く

設定

今から紹介する兵器の共通点

防御システム 複合フィールド発生装置 ピンポイントバ

リアー

エンジン GNドライブオメガ

装甲 装甲オメガ

武装 擬似魔法発生装置

空母 バトルフロンティア

変形可能 全長2000m

滑走路を多くした。(斜め横にそれぞれ2個、横にそれぞれ2個)
武装に二連連射式粒子砲を複数たした

戦艦 スパー級スターデストロイヤー改

全長2000m 色は、黒色中心でドス黒い赤色のラインが入っている。

都市みたいな所を覆う様な赤い幕を覆う

都市みたいな所の少し前が横に割れて砲撃モードになると木星サイ
ズの物が破壊できる砲撃が可能

武装 装甲一面に二連連射式粒子砲と粒子砲と粒子ポットがある

軍の装備

ヨク「今から軍の装備について詳しく描こうと思います。」

拠点 ガーリアンディエチ

各街の近くか隅の方にに基地を作っている
軌道エレベーター（予定）

今紹介する兵器の共通点

防御システム

複合フィールド発生装置

ピンポイントバリアー

エンジン

GNドライブオメガ

その他装置

ワープ装置 ゼロシステム（オメガ）へ暴走しない物をオメガとした。
光学迷彩（ミラージュコロイドのGN粒子版）

外部リンク（戦艦などとリンクしてエネルギーをもらえる。ワープ技術の応用） ワープ通信（高い通信力がある通信。ワープ技術の応用） 力場発生装置 擬似魔法発生装置 ステルス加工 センサーリンク（装甲オメガとリンクさせると、装甲にセンサーやカメラの機能がつく）

旗艦

エクリプス級スーパースターデストロイヤー

全長2500m

武装

装甲一面に粒子砲と粒子ポットとレーザーがあり。前方には、大型三連装粒子砲が四門ある。

空母

バトル級ステルス攻撃空母

全長2000m

変形可能

武装

三連装粒子砲×2

二連連射式粒子砲が複数

レール式カタパルトが8（ムサイ改のカタパルト）

滑走路が4つ

大型粒子砲

戦艦

スーパー級スターデストロイヤー改

姿は、前の設定と同じ

全長2000m

武装は、前の設定と同じ

護衛駆逐艦

スーパー級デストロイヤー

見た感じは、エターナルの後方部とレウルーラの前方部を合体させてエンジンの容量を増やした感じで左右の突き出した部分は、バトルフロンティアの肩の部分をデカくした（機体の3分の一にした）のをつけている

人型に変形可能で前方部が縦に割れ左右分かれて前に進み左右に突き出した部分が（2：1）に別れるそし

て、後ろ側が肩の部分になり前の部分が腕の外側になり前方部が回転などをして腕の内側になる。

また、下の装甲がシールドになりその中に大型粒子キャノンが入っている。

武装

三連装粒子砲×4

二連射式粒子砲が複数

粒子ポットが4つ

滑走路が2つ

レール式カタパルトが4つ

内臓式滑走路が2つ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8826s/>

魔法少女リリカルなのは 闇と言う名の正義

2011年6月5日13時34分発行